資料１

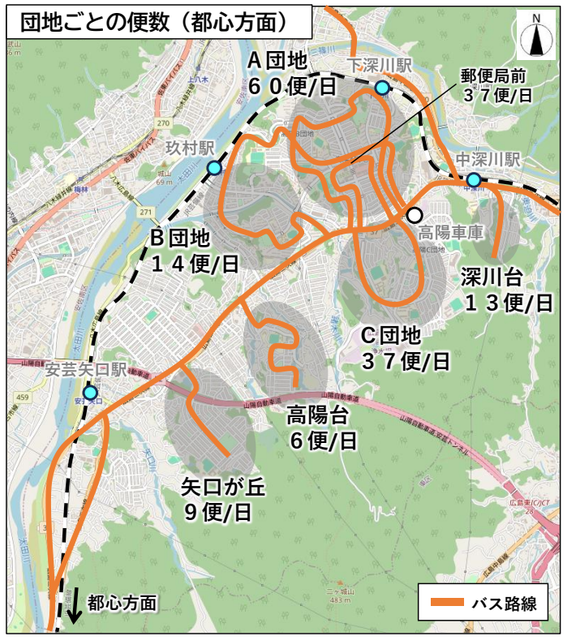
高陽地区における路線バスの実証運行（案）について

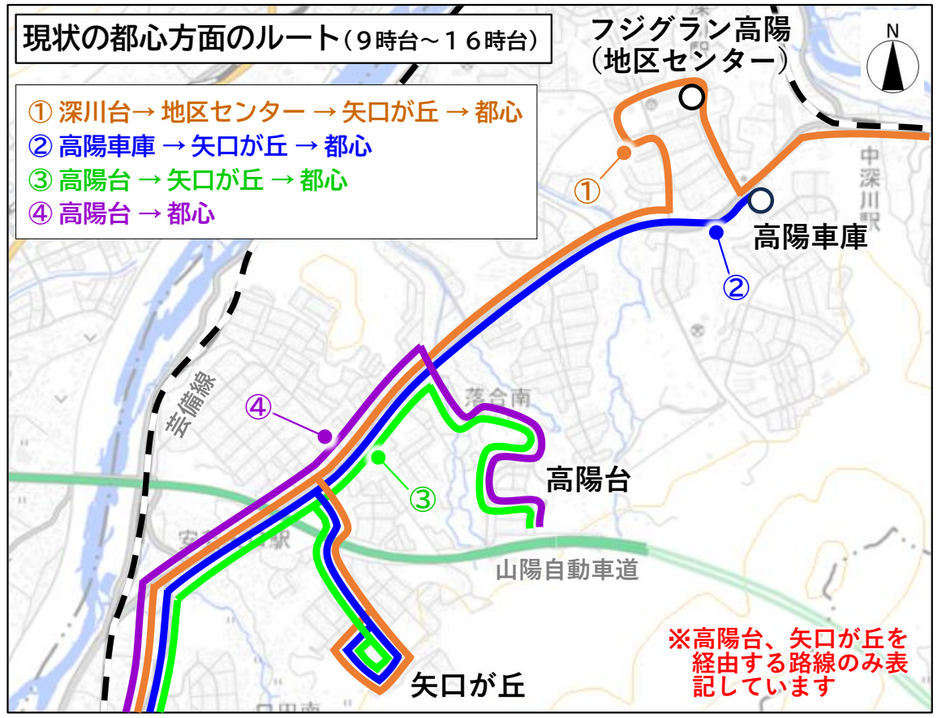
（一社）バス協調・共創プラットフォームひろしま

■　路線バスの現状と課題

高陽地区は、複数の団地（人口約 1,300 人～7,500 人）により形成される地区であり、ＪＲ芸備線、路線バス、乗合タクシー等が運行されています。このうち、路線バスは広島交通、ＪＲバス中国の２社により運行されていますが、以下の課題を有しています。

- 団地によってバスの便数が大きく異なる
- 高陽台、矢口が丘はバスの便数が少なく、日中は運行がない時間帯もある
- 朝夕のピーク時を除く時間帯は、都心方面へ向かう人よりも地区内で移動する人の方が多いが、バスは終日、各団地から都心方面へ直通運行しており、需要と供給が一致していない
- 朝夕のピーク時以外はバスの利用者数が少なく、採算性が低い

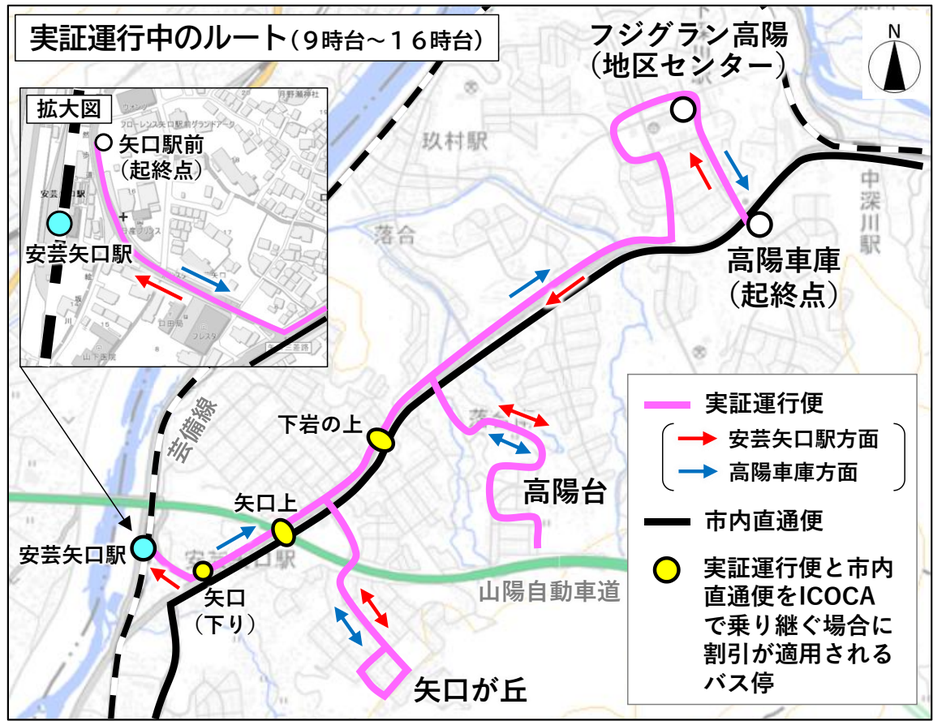




■　実証運行（案）

高陽地区の路線バスの持続性向上に向けた第一歩として、次の実証運行を予定しています。

運行事業者	広島交通、ＪＲバス中国
ル　ー　ト	右図参照
実施期間	１０月６日（月）　～　１２月３０日（火）（予定）
時　間　帯	朝夕のピーク時間帯を除く９時台～１６時台
実施内容	・高陽台、矢口が丘を経由して市内中心部へ向かう便を、ＪＲ安芸矢口駅やフジグラン高陽等へ接続する便に変更 ・変更した便を概ね１本／１時間で運行することにより、高陽台、矢口が丘の空白時間帯を解消（増便） ・下岩の上、矢口上、矢口（下りのみ）のいずれかのバス停で、実証運行便と市内直通便を ICOCA を使って乗り継ぐ場合、直通と同額となるよう運賃を割り引き ・フジグラン高陽の店内にバスの到着予定時刻を知らせる表示器を設置



■　今後の予定

９月中旬　　バス路線沿線の方に実証運行のお知らせチラシを配送

１０月６日～　実証運行開始